自発報告を含む安全情報の有効な利用に関する調査・研究報告書構成

まえがき 【リーダー】

第 I 章 調査研究の背景と目的

1. 背景 【事務局】

2. 目的 【事務局】

第 II 章 ワーキング・グループの構成 【事務局】

第 III 章 ワーキング・グループ （WG）の活動経緯 【事務局】

1. ワーキング・グループ会議 【事務局】

第 IV 章 調査内容および対象について

1. 本邦における安全文化の醸成と自発報告の更なる促進 【当局】

1－1 安全文化の醸成に資する取り組み 【当局】

－当局ポータルへ「航空安全プログラム概要」、「安全文化醸成に資するガイダンス」、「プロバイダーのベストプラクティス」等掲載（安全文化醸成の一助）

1－2 自発報告の更なる促進に対する取り組み 【エアドゥー】

－航空会社における取り組み（自主報告、社内義務報告） 【エアドゥー】

－航空局における取り組み（管制分野への取り組みと成果、更なる対応） 【当局】

2. 本邦における安全情報の評価・分析手法等に関する課題や方策 【当局】

2－1 航空安全監視システムデータベース（ASICSS）概要 【当局】

2－2 シームレスな運用を可能とするための評価・分析手法について 【 JAL 】

2－3 航空安全監視システムデータベース（ASICSS）の課題と提言 【 JAL 】

－秘匿化、評価分析手法、Taxonomy、見える化、共有のあり方等

3 本邦における安全情報の共有・交換ネットワーク 【ANA】

3－1 航空安全プログラムにおける安全情報の位置づけ 【 ANA 】

3－2 安全情報の共有における様々なネットワーク 【エアドゥー】

3－3 Japan INFOSHAREのあり方について 【 JAL・ANA 】

第 VI 章 まとめ

1. まとめ 【局、リーダー】

2. 過去提言（平成29年度提言~令和2年度提言）とフォローアップ 【局、リーダー】

3. 今年度提言 【局、リーダー】